

令和2年7月17日

阿賀野市議会議長 風 間 輝 榮 様

総務文教常任委員会委員長 山 口 功 位

### 所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会は、令和2年第3回議会定例会において議決を経た、閉会中の所管事務調査を下記のとおり行ったので、会議規則第110条の規定により報告します。

#### 記

- 1 調査事項 土砂災害対策について
- 2 調査期日 令和2年7月17日(金) 午前10時00分
- 3 調査経過

令和2年7月17日、菅原総務部長、阿部産業建設部長、鈴木危機管理課長の出席を求めて本委員会を開催し調査事項について説明を受け、現地調査及び意見集約を行いました。

- 4 調査結果  
土砂災害予防計画について

阿賀野市地域防災計画 第9節土砂災害予防計画に基づく市の対策について説明を聞きました。この計画には住民及び企業等の役割、市の役割等について定められています。

市では平成25年に地区別土砂災害ハザードマップを、平成30年度に阿賀野川洪水ハザードマップを配布しています。また、防災行政無線を整備し、要配慮者や施設、イエローゾーン、レッドゾーンにかかっている人家に対し戸別受信機を配備しています。あわせて同一の自治会で警戒区域にかかっている人家についても現在整備を進めており、再来年頃までに整備を終了する予定です。

近年豪雨による複合災害の懸念が高まっていることから、あらかじめいくつかの避難経路や避難場所を決めておくなど、万が一の事態が発生した場合には臨機応変に動けるよう考えておいていただきたいということでした。

## 大日川砂防ダム現地調査

新発田地域振興局地域整備部から計画調整課長と治水課長においでいただき、砂防ダムの目的と役割について説明を受けました。

砂防ダムには、土砂を貯めることで水の流れをゆるくしたり、川の浸食が進むのを防いだり、一度に大量の土砂が流れ出ないようにする働きがあります。平常時に天端（ダムの一番高い部分）まで土砂が貯まり、さらにその上まで土砂を貯められるよう計算されているそうですが、満砂になっても斜面や河床を安定させる効果があるということです。現地調査した大日川第1号ダムはまだ天端まで土砂が貯まっていない状態でした。

第1号ダムの200 m上流には第2号ダムがあり、第2号ダムはスリット式の構造になっています。スリット式とは、川から土砂が全く流れないと海岸が浸食されるので、それを防ぐためにあらかじめ開けた穴から少しずつ土砂を流すもので、土石流などは食い止めることができます。そこから1 km上流には治山ダムがあり、さらにその上には治山谷止工という小さな砂防ダムのようなものが16基入っており、山全体に土砂災害の対策がとられています。

今回の調査でしっかりと土砂災害対策が講じられていることを知ることができ、委員からは地元の方にも何かの機会に説明したいという意見がありました。しかし、いくら対策をしていても想定外の大雨が降ることもあるため、特に土砂災害に注意が必要な地域では、気象情報に気を付けながら早めの避難を心掛けてほしいという話もありました。また、地震の後は山にひびが入っている恐れがあり、さらに注意が必要とのことでした。

以上、総務文教常任委員会の所管事務調査の委員長報告といたします。